佐渡金銀山 未来に残そう 世界遺産

金銀山よもやまばなし(13)
鉱倉所および ベルトコンベアーヤード

昭和13年(1938)破砕場建設と同時に、鉱倉所およびベルトコンベアーヤードも建てられました。鉱倉所は破砕場地表面よりさらに一段下がった南側の位置(第三駐車場脇)に建ち、階高約10mの上部約1／3を鉄骨造、下部約2／3を鉄筋コンクリート造とし、最下部は柱のみの構造になっています。鉄骨造部分は切妻屋根とし、外壁および屋根とも波板スレート張り、内部にはベルトコンベアーが残されていることが確認されています。下部鉄筋コンクリート部は柱梁型を表した外観とし、梁間(はりま)1スパン、桁行(けたゆき)5スパンをとり、最下部は桁行の各スパン間に柱を3本配置し4等分にしています。切妻側から鉱車が2車両並列で進入できる構造で、停車したトロッコの各貨車に上部より鉱石を投入する設備を4か所×5スパンの20か所設けています。ここから濁川沿いに北沢まで軌道が敷設され鉱石を運搬していました。現在、県道白雲台・乙和池・相川線の主要地方道相川・佐和田線から接続するバイパス道の交差点西側に鉱車用トンネルが残っています。鉱倉所は外観上大きな損傷は見られないものの、建設年代が破砕場と同じことから、鉄骨や屋根軒先、建具廻りの劣化が発生していると推測されます。

ベルトコンベアーヤードは間の山駐車場から鉱倉所をつなぐ渡り廊下状の建築物です。鉄骨造平屋建て切妻屋根とし、外壁および屋根とも波板スレート張りです。小屋組みは山形鋼を用いたキングポストトラスとし、柱は山型鋼、母屋は木材を使用しています。内部にはベルトコンベアーが現存しますが、様々な残材が散乱している状況です。駐車場側約1／2は石積擁壁の上に木造による高床組みが組まれ、その上に鉄骨造の床を乗せています。

外壁および屋根の波板スレート張りに大きな損傷はないものの、構造体の鉄骨は錆による劣化がかなり進んでおり、鉱倉所側の1／2は床組みが破損している部分が見られます。

昭和27年の大縮小により北沢選鉱場が閉鎖されるまでは、鉱倉所の下にトロッコが付けられ、北沢まで鉱石を運搬していました。その後、大間港から鉱石が積み出されて四国の直島(なおしま)で製錬が行われるようになると、トロッコからトラックによる輸送に変わり、軌道も取り除かれてしまいました。平成元年休山までの長期間に渡り使用され、たくさんの鉱石が大間港・二見港の2港に積み出されました。鉱山勤務の人々には貯鉱場の愛称で親しまれていた施設でもあります。秋から晩秋にかけて、鉱倉所側壁を覆うように這うツタが紅葉を始めると、地元の人々もカメラを片手に集います。晩秋の紅葉時に見られる景色の中でも指折りのものです。この時期、観光バスも鉱倉所脇を通過するときは、一時停止や徐行運転でお客様サービスに努めておられるようですが、あまりの見事な景観に感嘆の声があがるということです。しばし、感動の後にカメラのシャッターを押す音が続くのもうれしいことです。これからが、見ごろの季節となります。一度訪れてその感動を味わってください。本来の役目は終了した鉱倉所・ベルトコンベアーヤードの2つの建物が、鉱山にむかう道路の脇で、道行く人を楽しませてくれています。このような建物と景色を大切に後世に伝えたいものです。

佐渡金銀山室
☎74—3115